

会 議 録

1 会議名

平成 26 年度第 1 回上越市環境審議会

2 議題（公開・非公開の別）

(1) 第 3 次環境基本計画について（公開）

(2) その他（公開）

3 開催日時

平成 26 年 6 月 23 日（月） 午後 2 時 00 分から午後 3 時 25 分まで

4 開催場所

春日謙信交流館 集会室

5 傍聴人の数

0 人

6 非公開の理由

なし

7 出席した者（傍聴人を除く。）氏名（敬称略）

委 員：角谷 詩織、田村 三樹夫、濱 祐子、山縣 耕太郎、上野 一郎、
矢頭 治、浦壁 澄子、栗田 朝子、小山 貞榮、布施 静枝、
古澤 和子、宮澤 嘉代子、吉村 久子、飯川 俊夫、上原 みゆき、
本間 敏弘、内山 見與子、東條 邦俊

事務局：村山環境保全課長、金山環境保全課副課長、佐藤環境計画係長、
小松原主任、海津主任、渡辺主事

8 発言の内容

(1) 第 3 次環境基本計画について

(事務局) 「資料 1-1」、「資料 1-2」、「資料 1-3」、「資料 1-4」、「参考資料 1」、「参考資料 2」に基づき説明)

(矢頭委員) 資料 1-1 について、計画の期間が平成 27 年度から平成 34 年度までの 8 年間となっているが、中間見直しを行う考えはあるか。

(事務局) 8 年の計画期間であるため、必要に応じて中間見直しもありう

ると考えている。

(飯川委員) 参考資料2について、現状値には平成24年度の数値が記述されているが、地球環境分野の温室効果ガス排出量だけは平成21年度となっている。平成21年度以降は把握していないということか。また、平成25年度の値を把握した時点で最終的な評価をした資料を提示するのか。

(事務局) 国の地球温暖化対策地方公共団体実行計画（区域施策編）策定マニュアルに基づき温室効果ガス排出量を推計している。推計値は様々な統計数値を用いて算出しているため、2年から3年程度遅れた数値にならざるをえない。

(飯川委員) 現状値に数値がはいっていない項目が散見される。「事業者における新エネルギーの導入」は、数値を把握していないにも関わらず、最高の評価をしている。数字があつての評価ではないか。

(事務局) 平成23年度に環境基本計画の中間見直しを行った時に、目標そのものを数値目標から定性的な目標に置き換えたためである。

(飯川委員) 生活環境分野の「町家雁木など歴史的建造物を活かした町づくりの推進」について、景観づくり重点区域指定面積の目標が掲げられているが、平成18年度から平成24年度の6年間に数値が変化していない。変化していないということは何もしていないという評価になるのではないか。

(事務局) 安塚区に景観づくり重点区域があるが、他の地域に取組が広がらなかった。担当課に聞くところによると、取組を行っていない訳ではないが、規制をかけるような区域の指定には、地元意識の醸成が必要不可欠であり、時間を要し難しい課題があるとのこと。

(飯川委員) 参考資料1の「環境改善活動の実践」の「参加・行動」の項目では、他の項目に比べて、「いつもしている」の割合が極端に低い。良い数値だけでなく、悪い数値をみることで問題点が見えてくるのではないか。「参加・行動」の数値を高めるには、

市民に対する環境教育の機会をもっと提供すべきではないか。

(事務局) 改善活動ができない理由の回答も得ていることから、数値が低いものを改善する手掛かりとしたい。

(飯川委員) 「環境問題への関心度」の「文化財や歴史的資源の保存、活用」の項目では、「とても感心がある」の割合が17.0%となっている。歴史文化財を活かした集客を上手く行っている長野県の小布施、松代、須坂や塩沢の牧之通りなどの取組を参考にすべきである。

(事務局) 第2次環境基本計画では、景観を含め広範囲をテーマに掲げて取組んできた。第3次環境基本計画においては、環境以外の分野の環境との関連性をどの範囲まで適用するかを検討していきたい。

(山縣会長) 今後の会議の中で平成25年度の現状値を提示することはできるか。

(事務局) 県から提供を受けている数値も含まれており、公表時期に制限がかけられているが9月頃には公表できる。

(古澤委員) 参考資料1の環境市民アンケート結果について、回収率40%は低いのではないか。回収率が低いということは、一人の回答結果が全体の結果に与える影響が大きい。また、回答者は環境に高い関心を持っていると仮定すると、結果を厳しめに分析する必要あるのではないか。

(事務局) 前回は無作為抽出した3,261人に対しアンケートを実施し、54%と高い回収率であったが、一般的アンケートでは回収率が30~60%、統計的には40%の回収率は有意な回答数であると言われている。回収率や回答者の傾向についてはご指摘のとおりであり、アンケート結果のみで市民の意識を判断しないようにしたい。

(栗田委員) 資料1-1の「計画の構成」について、「第5章計画の推進に向けて」とあるが、北陸新幹線が整備されれば、新潟市・長岡市あるいは富山市、長野市との関係性が強まることが考えられる

ため、広域的連携の視点をいれていただきたい。

(事務局) 全てを網羅して記載していないため、いただいた意見も参考に記載内容を検討したい。

(矢頭委員) 昨年度に今年度実施する環境関連事業の予算の説明があったが、ごみ焼却施設及びし尿処理施設に関連した予算が 90～95% を占めていた。これらの事業は、環境基本計画の中でどのように位置付けられるのか。

(事務局) ごみ処理関連の予算が大きいのは、クリーンセンターの建設費が含まれているためである。環境基本計画の対象は、ごみの分野とそれ以外の環境分野を合わせた範囲とするが、専門分野には直接触れず、市民生活に直結した内容を記載していく。

(矢頭委員) 資料 1-3 にある地球環境分野の施策案にある「メリハリのあるまちづくり（都市構造）」のイメージができないので簡単に説明をお願いしたい。

(事務局) 第 2 次環境基本計画では、コンパクトシティや歩いて暮らせるまちという表現があったと思う。今後は、スマートシティというような先進的技術によりエネルギー消費量を抑制するようなまちづくりも対象になると思う。公共交通機関を利用できるまちや歩いて行ける範囲に施設がそろうまちというようなイメージである。課題もあるが、環境と関連性がある分野である。

(栗田委員) 高齢者や障害のある方に配慮したすこやかなまちづくりを進めるため、何をすればよいのかを総合計画や環境基本計画に記載するべきではないか。

(事務局) このテーマの取り扱いを含めて、総合計画の作りこみが進められている。

(本間委員) 自然環境分野の課題として「里地里山の保全」が掲げられているが、今後 5 年程度の間中山間地域で閉鎖が見込まれる集落が存在するのか。そういった状況を把握しているのか。

(事務局) 自治・地域振興課が中心となって対策や支援策を検討している。動きがあれば資料として提供させていただく。

(山縣会長) 総合計画に関連していると思うが、総合計画の内容が確定するのはいつ頃か。

(事務局) 資料 1-4 に総合計画の策定スケジュールがあるが、第 2 回の環境審議会では、内容の詳細について提示できると思う。

(2) その他

(事務局) 本日、発言できなかった質問・意見等があれば、意見照会シートに記入のうえ、6 月 30 日（月）までに事務局宛に提出をお願いしたい。

(山縣会長) 他に意見・質問がなければ、これで議事を終了させていただきたい。

9 問合せ先

自治・市民環境部環境保全課環境計画係 TEL：025-526-5111（内線 1524）

E-mail：kankyo@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。